

平成27年度自己評価表（最終評価）

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	21世紀に生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。 校訓 「文武両道」「質実剛健」	今年度の 重点目標	1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立 ・挨拶の励行と掃除等の取組み指導（声かけ等）を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 ・特にS H R時の担任の話を大切に。・様々な教育活動の中で、自他を愛し、人権を尊重する意識を高め育む。 2. 学力向上による進路の実現 ・授業の大切さ（学ぶことの大切さ）と進路保障、特に授業参観等で各教科の授業研究を進める。 ・目的別クラス編成を軸にした授業内容や展開方法を工夫し、生徒が理解しやすい指導を行う。 ・明確な進路意識を持たせ、3年間を見通した指導を行う。 3. 部活動などの教育活動の振興 ・県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信する。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加する。また、部活動参加をオープンにし、地域の生徒の指導にあたる。 ・生活指導と併進して教育活動をさらに活性化。・学校生活の基盤である良好な人間関係を育成し、家庭と連携して生徒の指導にあたる。
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果（28年1月末現在）			
評価項目	評価の具体項目	現状（26年度の実績から）	目標（27年度の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立	○挨拶の励行、服装・清掃指導等を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 ○自他を愛し、人権を尊重する意識を高める。	○生徒指導に対して、教職員の共通理解が不足しており、指導にかなり差が見られた。 ○遅刻・欠席の多い生徒に対する指導は、学年・生徒部・保健部などでよく連携がとれ、早めの指導が行われている。 ○挨拶は気持ちよく出来ている。服装もきちんと整えている。 ○相変わらずチャイム後に教科書等をロッカーに取りに行く姿が見受けられた。 ○人権教育LHRでの話し合いが、学校生活の色々な場での実践になかなか繋がっていない。	○頭髮服装の違反者・遅刻者が減少する。 ○生徒同士、生徒・教員間の挨拶が日常的に行われる。 ○学習時間を含め、一日の規則正しい生活習慣が確立する。 ○自分と他者とのより良い関係について考え、自他を大切にする意識が高まる。	○常日頃から教職員全員で共通理解の下で、「見てすぐ注意・指導」を実践する。 ○自然なコミュニケーションとしての挨拶・礼儀・態度が身につくように継続して指導していく。 ○今後も5分前行動を継続していく。 ○生活時間調査を定期的に行い随時指導していく。 ○より良い人間関係を築くためのソーシャルスキルトレーニングの実施を検討する。 ○人権教育LHRだけで終わらせるのではなく、常日頃から学校生活の問題点について考えさせるようにする。	○頭髮服装に関する違反者はほとんどなく、全体的に守れている。遅刻に関しても、概ね良好だった。 ○より良い人間関係を築くためのソーシャルスキルトレーニングを実施し効果があった。 ○授業開始時に遅れて入室したり教科書等の準備ができていない生徒がまだ見られる。 ※「規律ある高校生活を送れた（生徒95.2%、保護者77.8%、教職員96.2%）」 ※「自他を大切にできた（生徒94.8%、保護者95.9%、教職員63.9%）」	A	○きめ細かなかつ継続的な指導が必要である。 ○生徒面談を重ね、家庭の協力を得ながら、個別指導を徹底する。 ○人間関係スキルの充実とコミュニケーション能力の育成。
	○環境改善や校内美化に対する意識を高める。	○26年12月末現在(H25年同期比)電力使用量7.2%減 可燃ゴミ排出量 5.2%減。 ○教室のゴミの分別はできているが、選択教室は不十分である。 ○夏季のエアコンについて、使用規程を徹底する必要がある。	○電気使用量の25年度比1％減（26年度から3年間で5％減）、可燃ゴミ排出量の25年度比3％減（26年度から3年間で10％減）を達成する。 ○ゴミの分別を徹底する。	○ゴミの分別・減量、電力削減に対する意義を理解させるように、啓発していく。 ○年度当初に、ゴミの分別ルールを生徒に分かりやすく説明する。 ○個人ロッカーの使い方について個別に指導する。	○ゴミの減量化や消費電力削減で大きな成果があった。環境委員等が活躍して他の生徒の意識が向上した。 ○ゴミの捨て方など一部で徹底できなかった場面もあった。 ※「校内美化（生徒85.9%、保護者75.9%、教職員63.9%）」	B	○紙をゴミとして捨てているが、紙はゴミではない。不要の紙を資源として再利用できるということを徹底したい。 ○教職員も含めたゴミ分別・持ち帰りの徹底。
2. 学力向上による進路実現	○授業研究を進め、希望する進路実現に繋がる学力を引き上げる。	○11月進研模試全国偏差値50以上人数 1年:国38,数18,英28 2年:国39,数36,英26 3年:国13,数 8,英16（以上26年度） ○授業や講習で模試対策はなされているが、結果についての反省・分析が不十分である。 ○各教科で研究授業を実施し、授業改革に努めた。	○全国模試において、国語・数学・英語の各教科で全国偏差値50以上の生徒が40人以上いる。	○模試結果の分析・共有・活用を押し進める。 ○1年次に中学校の学習内容の定着を図る期間を設定し、学力の積み上げを徹底する。 ○何のために進学するのか、そのために努力するとどんないいことがあるのか、何をすべきかを喚起させるキャリア教育を適宜実施する。	○教科指導法も工夫され、生徒も応えようとする雰囲気できてきた。 ○校外模試に対応できる学力養成がまだ不十分である。 ※「希望進路の実現（支援）（生徒64.2%、保護者84.6%、教職員60.6%）」	C	○生徒一人ひとりへの面談を教職員が組織的に適宜実施する（学級担任・教科担当等に任せきりにしない）。 ○やらなければならないと思いながらも行動（学習）に移せない生徒が多い。校外活力を一層導入し、自己変革・意識高揚を図る。 ○校外模試結果分析を各教科で行い、授業内容や進度の工夫を図る。 ○進路ガイダンスの内容充実と進学情報の精選。 ○3年次生にも1月末に学年末考查を実施するなどし学習の雰囲気づくりを強化する。 ○進学希望の1年次生には希望進路の実現を計画的に推進するよう指導を充実する。
	○授業内容や授業展開を工夫し、生徒の理解度を高める。	○授業評価(26年12月調査)【思う+そう思う】 「授業の内容が理解できる」85% 「興味・関心のわく内容である」76% 「授業に総合的に満足している」86% ○生徒の実態に即した授業を目指して、各教科担任がよく工夫・努力している。	○目的別クラス編成や生徒の進路目標に応じた授業を工夫し実施する。 ○生徒の学習理解度が向上する。	○目的別クラス編成や生徒の進路目標に応じた授業を今後も継続して工夫していく。 ○多様化する生徒に合わせて、学校内における教材研究の時間を確保する。 ○生徒の実態に応じた小テスト・課題を実施する。	○学力不振者に対するきめ細かな指導が十分できていない。 ○授業公開週間中の授業実践・研究協議が教職員のスキルアップにまだ十分とはいえない。 ※「授業理解（工夫）（生徒72.3%、保護者73.9%、教職員54.5%）」	B	○必要に応じて継続的に個別指導（個別課題等）の充実を図る。 ○8限講習の改善を図り、長期休業中の講習等も見直す。
	○3年間を見通した指導により、家庭学習の習慣を確立させる。	○家庭学習時間(26年11月調査) 平均 1年:142分 2年:144分 3年:146分 習熟平均 1年:256分 2年:208分 3年:255分 2時間以上 1年:51% 2年:54% 3年:52% ○「家庭学習＝定期考査前」の傾向があり、この意識の改善が必要である。	○生徒が進路意識を高め、各自の進路目標を早期に設定し効果的に取り組ませる。 ○生徒の50%が家庭学習を1日2時間以上する。	○教員の進路勉強会なども実施（進路判定会への1・2年担任の参加を可能に）する。 ○学習・部活動について、メリハリのある生活ができるように、継続的に指導する。 ○今年度も年間予定表に従って週明けテストを実施する。	○1日2時間以上の家庭学習時間をしている生徒は全体では43.1%であった（習熟クラスでは97.6%）。（27年11月調査） ○年間を通して実施する週明けテスト（毎週月曜日実施）で、好成绩を維持し、学習のモチベーションを高めた生徒も多かった。 ○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。 ※「家庭学習（支援）（生徒60.6%、保護者52.3%、教職員21.2%）」	C	○年間を通して実施する週明けテストの工夫改善とあきらめない生徒育成。 ○生徒一人ひとりへの独自課題の設定と現時点での学力に応じた丁寧な指導の充実。 ○家庭学習と授業内容をなお一層関連づけるよう工夫を重ねる。 ○定期考査直前には家庭学習時間が急上昇するのだから、平時での学習の大切さを粘り強く理解させ、学力向上を図る。
3. 部活動などの教育活動の振興	○個々の能力や適性を発揮し、多くの部活動が全国大会等で活躍することで、学校の活力を高める。	○全国大会出場 運動部24名 文化部50名 ○外部指導者委嘱 運動部9名 文化部5名（26年度）	○全国大会へ100人以上の生徒が出場する。 ○部活動を通じて集団意識が高まる。 ○多くの部活動が活躍することで、学校・生徒の活力が高まる。	○大会の結果のみではなく、授業への取組や部室清掃への取組など、学校生活全般にわたって働きかけ、成長を望むことが必要である。 ○施設・設備の充実や外部指導者の招聘により、部活動にしっかり取り組める環境づくりをより一層推し進める。	○全国大会出場者は70人。（ハンドボール ヨット 陸上 吹奏楽 写真 将棋） ※「部活動充実（生徒92.5%、保護者92.4%、教職員88.9%）」	B	○充実した環境の中で本校の部活動はできるので、1年次生から計画的に育成したい。
	○小・中・高・大の連携により、人的交流や授業連携・研究交流を充実させ、教育活動の活性化を図る。 *教科でつながる「鳥取発スクラム教育」 *スクールプロジェクト（小学生との交流事業） *中高連携学力向上プロジェクト	○27年度より英語教育で新たなスクラム教育を実施。 ○10月の授業参観週間に各教科で研究授業を実施。 ○中学3年生夏季学習会を4日間実施(71名参加)「高校教員の解説は分かりやすかった」(91%) ○中学1年生生曜日学習会を5～12月に計8回実施(163名参加)、教材を中高の教員合同で検討「学習習慣が身についた」(67%)「学習意欲が高まった」(63%) ○スクールプロジェクトを9～12月に計9回実施～小学生32名、高校生延べ153名、大学生4名参加…小学生とうまくコミュニケーションがとれ、楽しく、来年もやりたいという高校生が多かった。 ○鳥取大学教官による出前授業を理科で3日実施 ○外部講師による英語多読授業を2回実施 ○10月に2年生が大学・専門学校を訪問。 ○11月に1年生が地元企業を訪問（7社）。	○中高で連携した学力向上の取組（英語多読等）が充実する。 ○中高の教員の授業交流・研究交流が充実する。 ○小学生との交流事業への参加者が小学生・高校生とも増加するとともに、内容が充実する。 ○島根大学・鳥取大学・鳥取環境大学をはじめとする大学との連携（出前講座・職員研究等）が深まる。	○進路目標を早めに決めさせるように今後も大学訪問や企業訪問を実施する。 ○夏休み中のオープンキャンパスへの参加を広く生徒に呼びかける。 ○今年度から授業内に英語多読の授業を実施するので、できるだけ多くの生徒が興味を持って選択してくれるように年度当初から多読授業の魅力を伝える。	○スクールプロジェクトは10周年を迎え、文部科学大臣表彰を受賞した。今後も地元小学生に呼びかけ、地域で児童生徒を育てる実践を重ねたい。 ○小中学生との交流・学習指導が境高生自身に良い影響を与えている。 ○島根大学等への大学訪問は大きな刺激となって進路意識・学習意欲の向上につながった。 ※「スクールプロジェクト、中一・中三学習会（生徒81.2%、教職員88.6%）」 ※「大学等連携（大学訪問・出前授業等）（生徒93.3%、教職員88.6%）」 ※「英語多読（生徒71.4%）」	A	○英語のスクラム教育・多読授業で成果を上げており、今後も充実させていく。 ○中学生を対象とした学習会も充実してきた。指導方法等において中学校と連携を深めたい。 ○多読用書籍5,000冊以上を早期に配置する。
	○PTA、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進める。	○書道部・吹奏楽部が地域イベントに参加しパフォーマンスや演奏を披露した。 ○運動部を中心に、PTAと連携して地域の清掃活動を行った。（26年度112名参加） ○PTAの協力をいただき、学校行事や部活動の大会成績等を学校ホームページへ随時掲載できた。	○地域活動に積極的に参加することで、地域からの信頼を得ている。 ○PTA等と連携した活動が充実する。 ○活動の状況を随時ホームページに掲載・更新し、取組を地域住民に積極的に発信する。	○今後も生徒に呼びかけ、合同清掃活動への参加者を増やす。 ○学校のホームページに基本情報を掲載する。 ○校外に向けての情報発信を充実させるための委員会等の設置を検討する。 ○ホームページの更新のために部活動・学年・分掌等が協力し、積極的に情報提供をする。	○生徒の活躍やPTAの活動を随時HPに掲載できてきた。 ○校外での活動（地域連携）充実も進んできた。 ※外部連携（教職員80.6%）」 ※HP更新（保護者70.4%、教職員64.7%）」	B	○学校HPの更新をこまめに行う。さまざまな学校活動を紹介する。 ○今後もPTAと協力し、また学校評議員・学校関係者評価委員等外部からの提言も大切にして教育活動を充実させる。

評価基準 A:十分達成[90%以上] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[50%程度] E:目標・方策の見直し[40%以下]

（※数値は「生徒・保護者・教職員アンケート」結果の「良かった」等の割合）